

## X RRSチーム

ラピッドレスポンスシステムとは、患者さんの状態が重症化する前にその兆候を発見し、介入するシステムであり、当院では本活動が発足して7年が経過した。活動目的は入院中の患者さんの「予期しない状態変化による院内心停止」を回避することである。

入院患者さんの予期しない院内心停止を予防するためには患者さんの状態変化を見逃さず、医師と看護師、多職種が患者さんの状態を共有し、適切な治療・ケアを提供することが重要である。そのため、当院では看護師の「アセスメント力」の向上に注力した活動を展開している。

昨年度は週一回の全病棟ラウンドから、ラピッドレスポンスチームメンバーである集中ケア認定看護師、救急看護認定看護師、急性期重症患者専門看護師が担当病棟を随時ラウンドする活動形態に変更した。その結果、病棟看護師から重症患者さんのケアに関する相談件数が増加し、予期しない心停止を回避できるケースが増えた。

相談内容の約22%が「呼吸系」に関するところから、次年度は呼吸ケアチーム(Respiration Support Team)と連携しながら活動する予定である。

### X-1 ラピッドレスポンスシステム起動基準

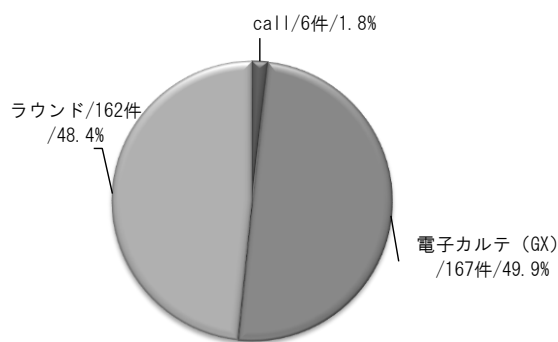
項目	内容	指標	コード
呼吸器系	新たな自発呼吸数の低下	8回/分以下または28回/分以上	Ra
	新たな酸素飽和度の低下	SpO2 90%未満	Rb
循環系	新たな収縮期血圧の変化	90mmHg未満	Ca
	新たな心拍数の変化	40回/分以下または130回/分	Cb
尿路系	新たな尿量の低下	50ml / 4 H以下	Ua
神経系	新たな意識レベルの変化	GCS・JCSの明らかな低下	Na
		麻痺の出現	Nb
		痙攣の出現	Nc
全般事項	患者に何か気がかりなことがある	例：チアノーゼ、ADLの低下、予想範囲外の吐・下血など	Ga

※14歳以下は対象外

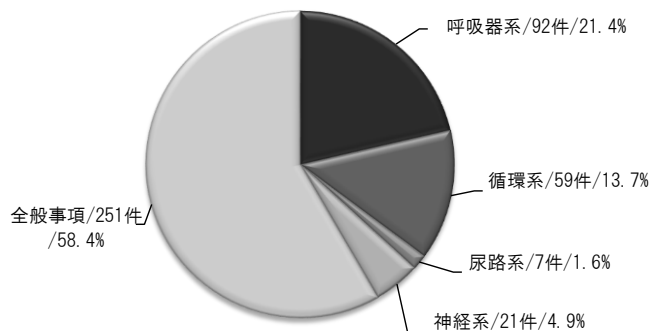
※コール対応は平日8：30～17：00

※ケアに困っているなども気軽にご相談ください

### X-2 30年度介入に至った経路の構成比率 (合計335件)

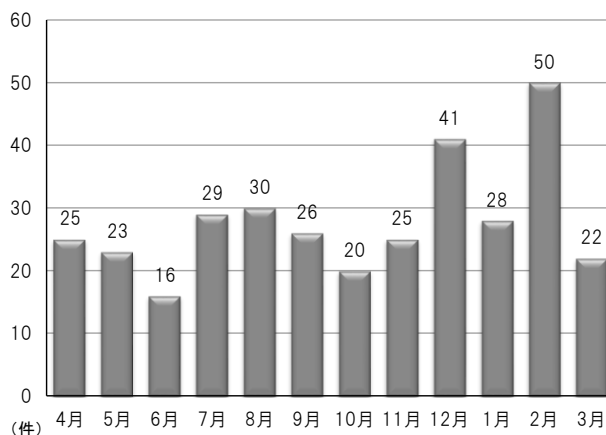


### X-3 30年度介入に至ったコードの構成比率 (合計430件)



※一患者あたり複数コードの場合あり

### X-4 30年度月別介入件数



### X-5 30年度診療科別構成比率 (合計335件)

